

# 2006年3月期 中間決算説明会

2005年11月10日  
大正製薬株式会社  
副社長 大平 明



TAISHO PHARMACEUTICAL CO.,LTD.

1. 2005年度中間期決算の概要
2. 2005年度通期業績の見通し
3. 医薬事業の展望
4. 医療用医薬品の研究開発

# 2005年度中間期決算の概要

(単位：億円)

	2004年度 中間期	2005年度 中間期	前年比
売上高	1,404	1,343	▲4.3%
セルフメディケーション事業	944	869	▲7.9%
医薬事業	460	474	3.0%
売上総利益(返品調整引当金繰入・戻入調整後)	983	931	▲5.3%
販売費及び一般管理費	672	675	0.4%
研究開発費	107	116	9.0%
(売上高比%)	(7.6%)	(8.7%)	-
広告宣伝費	89	84	▲6.3%
販売促進費	120	123	2.4%
人件費	169	168	-
営業利益	310	256	▲17.6%
経常利益	341	263	▲22.8%
当期純利益	208	156	▲25.1%
1株当たり当期純利益(円)	66.59	50.47	▲24.2%

# 2005年度中間期決算の概要のポイント

## ◆売上高 4.3%減収

## ◆売上原価率 前年比0.6ポイント上昇

- －主力製品の売上高減少(リアップ・パブロン)
- －中間製品(クラリスロマイシン)の価格改定及び売り上げ増

## ◆売上高販管費比率 前年比2.4ポイント上昇

- －研究開発費 116億円(+9億円)
- －販売促進費 123億円(+3億円)
- －広告宣伝費 84億円(▲5億円)

## ◆営業外損益

- －持分法による投資損失 11億円(▲18億円)

## ◆特別損益

- －確定拠出年金制度移行差益 7億円
- －減損損失 2億円(ベトナム工場設備)

# 2005年度通期業績の見通し

(単位：億円)

	2004年度 通期	2005年度			
		第1四半期	中間	通期予想	前年比
売上高	2,794	575	1,343	2,690	▲3.7%
セルフメディケーション事業	1,834	347	869	1,742	▲5.0%
医薬事業	960	227	474	948	▲1.3%
売上総利益(返品調整引当金繰入・戻入調整後)	1,946	397	931	1,848	▲5.1%
販売費及び一般管理費	1,399	325	675	1,403	0.3%
研究開発費	232	57	116	245	5.5%
(売上高比%)	(8.3%)	(9.9%)	(8.7%)	(9.1%)	-
広告宣伝費	173	46	84	166	▲3.9%
販売促進費	282	52	123	290	2.7%
人件費	339	-	168	340	0.3%
営業利益	547	72	256	445	▲18.6%
経常利益	581	82	263	475	▲18.2%
当期純利益	355	42	156	340	▲4.2%
1株当たり当期純利益(円)	114.15	13.78	50.47	110.07	▲3.6%

# 2005年度通期業績の見通しのポイント

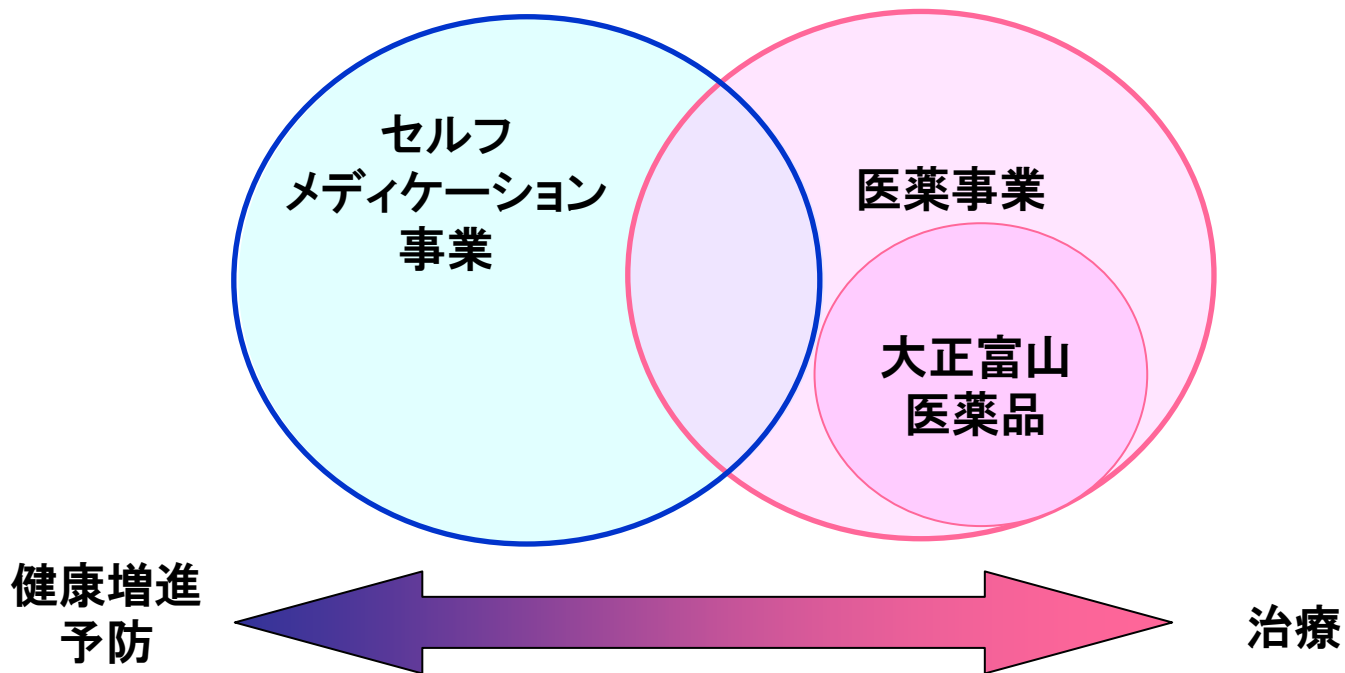
## 減収、減益の見通し

- ・セルフメディケーション事業 1742億円(▲104億円)
  - ーパブロン ▲24億円
  - ーリアップ ▲10億円
    - 女性用リアップの苦戦
- ・医薬事業 948億円(▲12億円)
  - ー医療用医薬品は堅調
    - 大正富山医薬品 830億円
  - ーロイヤルティ収入の減少
    - クラリスの特許切れ
- ・減益の要因
  - ー主力製品の売り上げ減少
  - ーロイヤルティ収入の減少
- ・特別利益
  - ー大正・サノフィ・サンテラボ製薬の株式譲渡益など 約80億円

1. 2005年度中間期決算の概要
2. 2005年度通期業績の見通し
- 3. 医薬事業の展望**
- 4. 医療用医薬品の研究開発**

# 大正製薬の目指す方向

セルフメディケーション事業と医薬事業の二つの事業が両輪となって成長を牽引



健康増進・予防から治療までトータルでカバーできる製薬企業



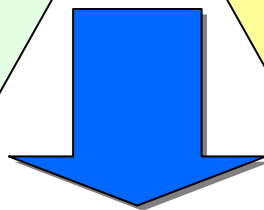


## 営業・マーケティング体制の整備

- ・大正富山医薬品におけるシナジー効果の拡大
- ・製品の導入、販売提携によるラインアップの充実
- ・新薬の上市を見据えた営業、マーケティング体制の整備
- ・更なる業務、資本提携による規模の確保

## 研究開発体制の構築、整備

- ・オリジナル新薬の継続的な創出
- ・開発体制整備による上市までのスピードアップ、開発成功率の向上
- ・重点領域の絞り込みによる戦略的、効率的な新薬の上市
- ・導出、共同開発契約による収益の拡大



セルフメディケーション事業と並ぶ収益の柱として医薬事業を確立する

# 医療用医薬品の研究開発について

## 時代認識



## R&D部門



パイプラインに  
加わった主な  
開発コード

2002	2003	2004
NT-702 (P2)	TS-021 (P1)	T-3811 (P3)
	TS-022 (P1)	TS-033 (P1)
	TS-011 (P1)	TS-041 (P1)

# 研究開発パイプライン

パイプライン (2005年11月1日現在)

大正製薬 開発品

開発段階	製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
申請中	クラリス	経口	レジオネラ感染症	アボットジャパン共同	大正製薬	適応追加
	クラリス	経口		アボットジャパン共同	大正製薬	製剤一変 ドライシロップ(小児用) の製剤改良
	クラリス	経口	ラベプラザール、アモキシシリンとの3剤併用による ヘルコバクター・ピロリ除菌	エーザイ、 アボットジャパン他共同	大正製薬	用法・用量変更
フェーズ3	T-3811	経口	ニュータイプ <sup>®</sup> のキノロン系合成抗菌剤	富山化学共同	富山化学	
フェーズ2	NT-702	経口	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う 間歇性跛行 (閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行)	日産化学共同	日産化学	
	(海外:NM-702)					
	NT-702	経口	気管支喘息	日産化学共同	日産化学	
	パルクス	注射	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	大正製薬/三菱ウェルファーマ	適応追加
フェーズ1	TS-021	経口	2型糖尿病	自社	大正製薬	海外 海外
	TS-033	経口	1&2型糖尿病	自社	大正製薬	
	TS-041	経口	うつ病・不安症	ヤンセン共同	大正製薬	
	TS-011	注射	脳梗塞急性期	自社	大正製薬	
	TS-022	外用	アトピー性皮膚炎	自社	大正製薬	

富山化学 開発品(大正富山医薬品での販売を予定している開発品)

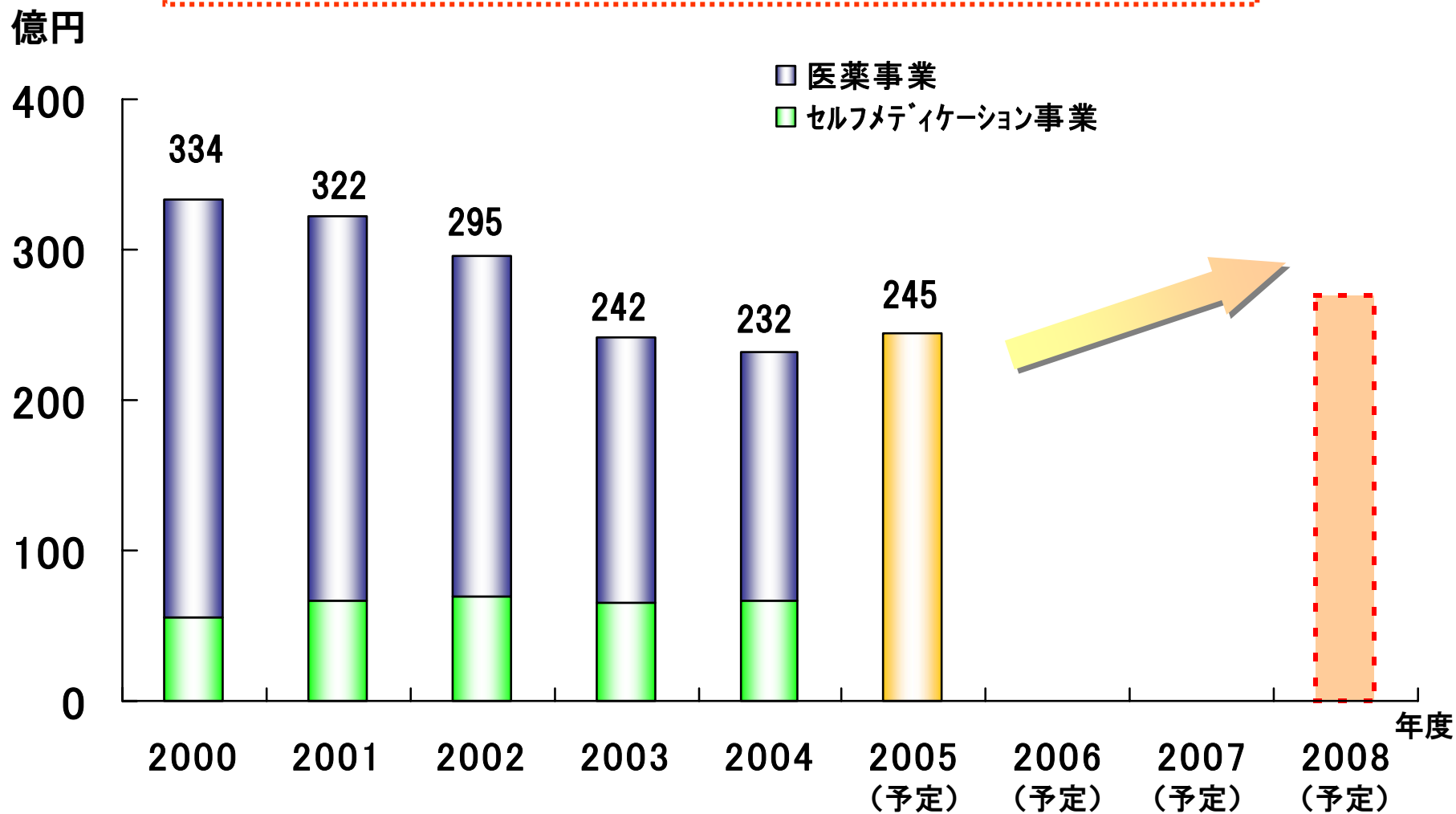
開発段階	製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
申請中	T-614	経口	関節リウマチ(DMARD)	エーザイ共同	富山化学	南アフリカ:P2a終了 韓国:東亜製薬へ導出
フェーズ3	YP-18	注射	$\beta$ -ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質	大鵬薬品共同	富山化学/大鵬薬品	

# 研究開発：重点領域

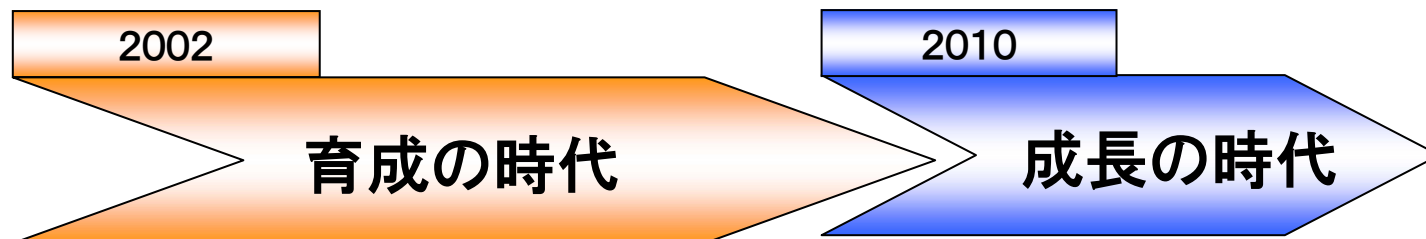
重点領域	開発コード（特長）	剤形	開発状況	今後の予定	
感染症	富山化学との協力体制の構築				
	開発 ステージ	T-3811 (ニュータイプの キノロン系合成抗菌薬)	経口	国内：フェーズ3	国内：2006年前半に 申請予定
	創薬 ステージ	数テーマの共同開発を推進			
糖尿病	TS-021 (DPP-IV阻害作用)	経口	国内：フェーズ1 海外：イーライ・リリー社へ 導出	国内：2006年度初頭に フェーズ2入り 予定	
	TS-033 (SGLT阻害作用)	経口	国内：フェーズ1 海外：IND申請準備中	国内：2006年度初頭に フェーズ2入り 予定 海外：2005年末までに IND申請予定 2006年初頭に フェーズ1入り 予定	
精神神経	TS-041 (CRF1受容体拮抗作用)	経口	海外：フェーズ1 (ヤンセン・ファーマ シューティカ社共同)		

# 研究開発費の推移 今後の見通し

セルフメディケーション事業、医薬事業ともに増加の見通し



# 成長の時代に向けて



## 2010年頃まで

- ・積極的な導入・提携で  
医薬事業の収益を確保
- ・新薬の上市による医薬事業の  
拡大  
(例)T-3811
- ・製剤改良、適応拡大等による  
既存製品の売り上げ確保  
(例)クラリス  
パルクス

## 2010年頃から

- ・自社オリジナル新薬の上市
- ・精神疾患、糖尿病領域を新  
たな収益の柱として位置づけ  
(例)TS-021  
TS-033  
TS-041